

2017/18年冬季の異常な中高緯度大気循環に影響した異常なチャクチ海の海水減少

Did an Arctic sea-ice hole cause hemispheric extreme cold winter in 2017/18?

*太田 圭祐¹、立花 義裕¹、小松 謙介¹、Vladimir Alexeev²、Lei Cai²、安藤 雄太¹

*Keisuke Ota¹, Yoshihiro Tachibana¹, Kensuke K. Komatsu¹, Alexeev A. Vladimir², Cai Lei², Yuta Ando¹

1. 三重大学大学院 生物資源学研究科、2. アラスカ大学

1. Graduate School of Bioresources, Mie University, 2. International Arctic Research Center, University of Alaska Fairbanks

2017/18年冬季は日本全体で平年よりも気温が低く、冬季を通じて気温の負偏差が続く冬となった。特に西日本の平均気温平年差は -1.2°C で、1986/87年冬季以降の32年間では最も寒い冬となった。2017/18年冬季は北極上空の過去最高値の高気圧偏差を中心とした中高緯度大気循環場が冬季を通じて持続した異常な事例であった。

一方、バレンツ・カラ海と同じく北極海の太平洋側に位置するチャクチ海の海水は過去最低値を記録した。チャクチ海の異常な海水減少と2017/18年の寒冬をもたらした異常な大気場との関係の考察は、2017/18年の事例を理解する上で重要であると考えられる。

以上のことから、本研究では寒冬をもたらした2017/18年冬季の異常な中高緯度大気循環について、初冬の異常なチャクチ海海水減少がもたらす影響について考察することを目的とする。

キーワード：チャクチ海、海水

Keywords: Chukchi Sea, Sea-ice

term1 hgt500hPa yr30 re

